

## 自分の仕事に誇りを持つ

1月17日に開催されたローターアクトクラブのウィンター交流会に参加した。伊藤三之パストガバナーのラーニングセミナーとグループディスカッションがメインである。テーマは「職業奉仕」。難しい内容かと身構えたが、伊藤パストガバナーの分かりやすい「職業奉仕」についての解説やグループディスカッションでの工藤亜紀子ノミニーの「正解も不正解もない」という言葉、本間委員長自身の職業奉仕の体験談を受け、私自身の職業奉仕を考えることができた。

私の職業は損害保険業である。

損害保険というと、人々の不安をあおっていると言われたり、形のない商品であり、分かりにくいというマイナスなイメージをよく持たれがちである。幸いなことに私も損害保険を使うような大きな事故にあったことはなく、損害保険に入っていて得をしたことはない。

しかし、先日保険人として、損害保険業に携わる者として仕事に誇りを持った出来事がある。それは、山形県内のとあるスキー場で職場の同僚とスノボをした帰り道のことである。山道で路面は凍っていた。目の前に一台のハイエースが横転していた。乗車していたのは20代前半くらいの若者の4人組でとても戸惑っている様子だったが、幸いけがはなさそうだったため、少し声をかけて去ろうと思っていた。しかし、状況を確認すると、警察へも保険会社へも連絡をしておらず、親へ連絡をしているだけとのことだった。私たちは慌てて車に備え付けられている車検証と保険証券を確認し、保険会社と警察へ連絡するよう指示したが、結局一緒にいた同僚とすべて代わりに手配することとなった。

だんだんと暗くなり、レッカーと警察が来たのは30分以上たってからだった。また、タクシーも来たようで、私たちはその場を後にした。その後無事に帰れたと連絡をもらって安心した。

実際の事故の現場に遭遇したことで、損害保険の重要性を改めて認識するとともに、事故時には、損害保険の知識がない人は思っている以上に対応が分からないということに衝撃を受けた。

自社商品の中に、「事故時に自動で保険会社に連絡してくれるドラレコ商品」があるが、この車にその商品がついていれば、と思った。誰しも事故にあう機会は少なく、事故にあった際は動揺する。今回は、自動で保険会社に連絡してくれる自社のドラレコ商品の重要性を身をもって体感した。これまでは自社のドラレコ商品について、具体的なイメージがわからなかったが、今回の経験で、自社商品を自信をもってお勧めすることができると思った。

今回の経験でこの若者たちが損害保険の重要性を感じて、これからも安全安心に過ごしてもらえれば、損害保険業に携わる者として一定の役割を果たせたのかも知れない。それと同時に、まだまだ未熟ではあるが、損害保険業という仕事に誇りとプロ意識をもって働いていきたいと思った。